



かすりすと

十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。

2010かすりの小径まつり

かすりを身につけて、春の寺町を散策しませんか!

4月24日(土)
開催

◆開催日／平成22年4月24日(土)

◆受付場所／千栄禅寺

◆開催時間／10:00～16:00

◆散策場所／寺町通り～旧國武絣倉庫
(日吉町楠病院前)までの約1km

久留米絣の魅力が小径いっぱい!

今年で第4回となる「かすりの小径まつり」。久留米絣の創始者井上伝の命日にあたる4月26日を記念して、週末24日(土)、久留米の寺町界隈を久留米絣ゆかりの地を訪ね春の一日をゆっくり楽しむイベントです。

今回から名称も「かすりの小径まつり」となっており、寺町から日吉町界隈までいろいろな催し物が企画されています。一例を紹介すると、千栄禅寺では、公募モデルによる絣ファッションショー、久留米絣作家の松枝哲哉氏による講話「初めての歌会始め」があります。善福寺では小径ギャラリー特別展「山村健・松枝哲哉二人展」、日吉町旧國武絣倉庫では、かすりのディスプレイ「かすりのある暮らし展」など多彩な催しが用意されています。さらにスタンプラリー参加者先着100名様に絣のハギレのプレゼントもあります。

春爛漫の週末、かすりに藍(会)いに出かけませんか! (詳細は4pをご覧ください)

お問い合わせ

地場産くるめ

TEL.0942-44-3700 FAX.0942-43-1020



CONTENTS

1p ・4月かすりの小径まつり開催

2p ・久留米かすり秘話 vol.8
『藍の魅力 その2』

3p ・藍・愛・で逢いフェスティバルイベント
・絣織元登場 龍絣工房(大川市)

4p ・かすりトピックス
・かすりの小径まつり
・地場産くるめSHOP INFORMATION

シリーズ

久留米かすり秘話

VOL.8

『藍の魅力 その2』

変幻する藍

久留米大学 比較文化研究所
文化財保存科学研究部会 成果発表より

藍菌の存在

去る2月27日(土)、サンライフ久留米にて久留米大学医学部感染医学教室の桑野剛二教授による「久留米絣をつくる藍菌」をテーマにした講演会がありました。100名を越す参加者で、藍菌への関心の高さを感じました。



会場のサンライフ久留米



資料となった古布や平成17年作の絣布等が展示された。(写真上・下)



取材協力／
久留米大学 比較文化研究所、
文化財保存科学研究部会、
藍生庵(松枝哲哉氏、松枝小夜子氏)



かすりすと前号(Vol.11)では、藍染めの主役である「藍菌」の存在に触れました。江戸時代から藍菌が見つかったという話から掲載しましたが、その後の研究でその生命力と役割が解ってきました。今回はその発表を裏

生活の中の藍

お話の中で、驚いたのは藍草を乾燥させ葉(すくも)を造るときに発酵熱が65〜70度度の高温になること、久留米絣の藍染めの堅牢性(色落ちしない)、さらに虫除け、アセモ、かぶれ、皮膚病な

付ける研究成果を、藍の成長から、藍建(あいだて、藍染めの染料づくりで藍瓶で育てる)までを写真等で紹介しながら発表されました。

どの藍染めの下着等が効き目があることを経験的に伝承されてきたのも、藍菌の存在が大きいのではないか、ということでした。久留米絣が井上伝によつて織られて以来約200年。100年以上たつた古布でも生き続ける藍菌。経験の中から生まれた藍染めは暮らしに役立つ実用品としての一面と、発酵という微生物がもたらす色彩の変化による染織美という両面を持つており、私たちの暮らしの中にもっと身近な存在であつて欲しいと思います。



成長する蓼藍の生葉と乾燥した藍の葉、そして発酵しながら藍染めの原料となる藍甕。(撮影協力／藍生庵)

藍・愛・で逢いフェスティバル

日時 3月20日(土)・21日(日) 【午前10時～午後5時】
場所 会場産くるめ 久留米地域産業復興センター 福岡県久留米市東合川5-8-5

イベント情報

※イベント内容は一部変更することがあります

1F 藍・愛・で逢い広場
(出展28企業)

出展ブースでは、久留米絨や和・洋装製品・工芸品小物・手工芸用のハギレ等の品々を割安で取り揃えて、満足いく買い求めができます。

1F 久留米絨ファッションショー

【公演】両日1日2回 11:30～、15:00～



1F 2010久留米絨新作発表会

出展作品
(手織絨部門・機械織部門・絨二次製品部門約130点)

【一次審査日】20日(土)
【二次審査日】21日(日)
【審査結果発表】21日(日)

審査参加者へ抽選により20名様へ絨粗品進呈。

1F 久留米絨活用製品企業コーナー

久留米絨を活用したスニーカー、工芸品、時計等を販売します。
【出展者】(株)アサヒコーポレーション・安永企画

1F 新風久留米絨ブランド化プロジェクトコーナー

広川町、久留米絨織元の後継者が現代の久留米絨を提案します。
【出展者】広川町商工会 久留米絨ブランド化事業実行委員会

2F 手織り体験教室

【体験時間】10:30～16:30 【募集人員】1日各10名 計20名
【申込方法】3月5日(金)より受付 【教材費】有料
【申込受付先】事務局 0942-44-3701

1F 姉妹都市 福島県郡山市 観光物産フェア

ラーメン、銘菓、民芸品等の特産物の協賛販売を行います。

2F 久留米絨特産品「ふるさと市」

筑後地域の銘菓や新鮮な野菜、特産品などの販売を行います。

2F 絨オーダーメイド

「アトリエ筑後十色館」(常設展示即売場内)では、デザイナーがオーダーメイドコーナーで対応します。

2F 絨小物 制作教室

【時間】1日午前・午後2回
参加者は各日とも当日受付可
【材料費】有料

2F かすりでハイ・ポーズ

プロカメラマンが写真撮影!

【お問い合わせ先】藍・愛・で逢いフェスティバル実行委員会 TEL.0942-44-3701 (無料送迎バス運行)

絨織元登場 創くるる



りゅうかすりこうぼう
龍絨工房

りゅう たかやす けいち
龍 隆康さん(右)、啓二さん(左)

大川市大字新田727
TEL.0944-86-4016



昭和23年の創業以来、約60年間絨を紡ぎ上げている龍隆康さん。そんな龍さんが仕立てるネクタイ、ランチョンマットなどの絨の小物は、すべて手織りだという。龍さんがそこまで「手織り」にこだわる理由とは…。

「大量生産」と「手織り」、それぞれの役割を果たすことが重要

2009年の「福岡県伝統的工芸品展」において「福岡県知事賞」を受賞された龍さん。受賞した作品は、従来の絨に赤ラインを入れた、



県知事賞を受賞した、赤のラインが入った手織りの絨

これまでの絨にはない図案であった。その受賞理由について龍さんに尋ねてみると、「審査員の方々からは、昔からの伝統に加え、新しい絨の魅力を引き出したことが評価されたのです。これからの絨の可能性を広げたということですね」と語る。

最後に、「伝統」と「新しい感覚」のどちらも大切にしていく龍さんに、これからの絨文化についてどう思うか尋ねてみた。「私は手織り専門ですが、大量生産をしていかなければいけない部分もあると思います。手織りではまかなえない部分ももちろんあるので、要するに、『機械化』と『手織り』それぞれの役割を果たすことが大事なのです。絨は日本の民族衣装のようなもので、絨の文化が無くなることはありません」と語る龍さんの言葉からは、絨に対する愛情が強く感じられた。

